多文化共生社会をめざして

あおもり国際交流つうしん

AOMORI INTERNATIONAL EXCHANGE JOURNAL

2025.6
NO.
156

交流型日本語教室で日本語指導サポーターと
学習者が一緒に課題に取り組む様子（十和田市）

CONTENTS

1 シリーズ：青森で働く
2 日本語学習教材～青森県で日本語を学ぼう！～
3 令和6年度実績報告
4 お知らせ
5 外国人相談窓口・世界で異なる文化・習慣
6 JICA特集　青森から世界へ

青森で働く

株式会社スーパーストア 中泊ベル店（中泊町）

アニラさん
（イデルツオグト アニルチュルーン）
モンゴル出身
2022年9月から勤務

私はモンゴル出身です。青森に来る前は、モンゴルの食品工場で1年半くらい働いていました。でもほかの場所で暮らしてみたいという気持ちと、お金を貯めたいという理由から日本で働くことを決めました。日本はとても暑いと聞いていましたが、来てみたらそうでもなかったです。中泊はモンゴルと気候が似ていて暮らしやすいです。それにこの辺の人達は優しくて丁寧に話してくれます。

日本に来てから難しかったのはごみの分別です。先輩や会社から教えてもらってだんだん覚えることができました。それから、新幹線の速さと桜の美しさに驚きました。日本の桜は本当に美しいです。

今、私は総菜部門で働いています。総菜を作って、お店に並べて、片付けや掃除をします。はじめは日本の食べ物について知りませんでしたから、写真を見ながら作っていました。お寿司も食べたことはなかったし、生のものは今でも食べません。総菜を並べている時には、お客さんが話しかけてくれたりしますし、他にインドネシアやベトナムの実習生がいますが、みんな仲がいいので楽しく働けています。はじめはお金が貯まったらモンゴルに帰るつもりでした。3年経ちましたが、まだ貯まっていないので、このまま中泊で働きたいと思っています。

休みの日はみんなで公園にピクニックに行ったり、五所川原のエルムに買い物に行ったりします。中泊にある温泉施設のジムには週に２、３回行きます。

総菜にラップをかける様子

日本語教室に参加するアニラさん

仕事が終わった後には日本語も勉強しています。日本語能力試験を受けるつもりですから日本語教室は役に立っていますし、楽しいです。生活に近いことを教えてくれて、先生たちも優しいです。

私が日本で働くと決めた時、家族は「自分のしたいことをしなさい」と言ってくれました。家族とは毎日SNS電話で話しています。私は9人家族で、7人兄妹の2番目です。家族はとても賑やかで小さい妹は私に会いたいと言います。妹たちはまだ学生なので、私の働いたお金を家族にも送っています。

私の夢は、お金を貯めて料理を出す店を作ることです。モンゴルに帰って、小さなお店を出して、家族と一緒に暮らしたいです。

代表取締役社長　野宮　直仁さん

初めて技能実習生を受け入れたのは、2016年の8月、ベトナムからの7名でした。他県で、すでに実習生を採用しているスーパーの職場や寮等を見学して参考にさせてもらいました。

現在はモンゴル、インドネシア、ベトナムの３カ国から合計22名の実習生がいますが、地元の夏祭りや成人式にも出席したりと、地域の人にも受け入れられていると感じています。

実習生の皆さんは、いつも笑顔で仕事も早く、真面目に働いてくれます。せっかく日本に来て働いているのだから日本語の試験にもどんどん挑戦して欲しいです。そのことが帰国した後でも彼女たちのチャンスを広げてくれると思います。日本の良さ、青森の良さを広げてほしいと思います。

当機構では、文部科学省の「令和6年度地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用して、日本語を学習できる動画とテキスト「青森県で日本語を学ぼう！」を作成しました。

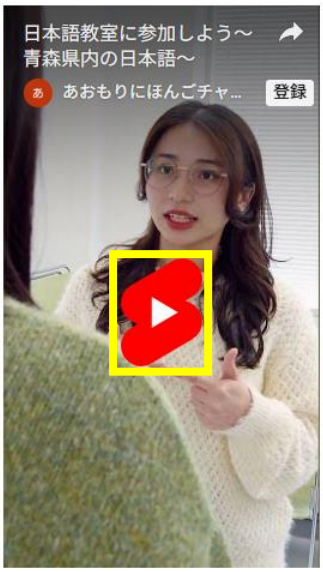
この動画は青森県の魅力と、県内で生活していくために必要な情報を知ることができる内容となっており、動画で使われる会話の中から、日本語学習ができるようにしています。

当機構のホームページでは特設サイトを新設し、動画の下にテキストのPDFを用意しました。

テキストをダウンロードすることで、動画の内容に沿った日本語を学習できます。

日本語を学びたい人、日本語を教える人、またその教室などで自由に学習に役立ててもらうことを目的としています。

視聴したい動画をクリックすると映像が始まります。



日本語教室に参加しよう
～青森県内の日本語教室～　2025.03.27

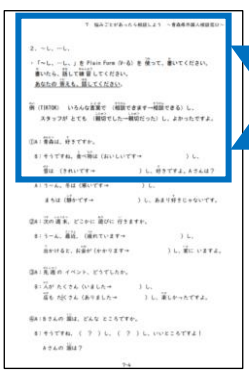
悩みごとがあったら相談しよう
～青森県外国人相談窓口～　2025.03.27

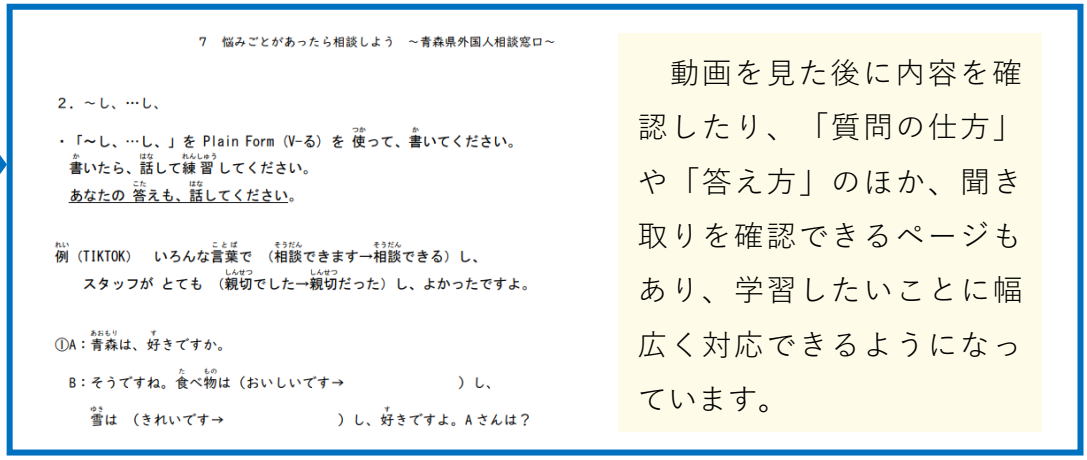
電車に乗って出かけよう
～青森県内の鉄道、駅～　2025.03.27

バスに乗って出かけよう
～県内路線バス、県外高速バス～　2025.03.27

PDFボタンをクリックするとテキストを見ることができます。

テキストは題材ごとに約10ページあり、ダウンロードして閲覧・印刷できます。





7　悩みごとがあったら相談しよう　～青森県外国人相談窓口～

2．～し、…し、

・「～し、…し、」を Plain Form（V-る）を 使って、書いてください。
書いたら、話して練習してください。
あなたの 答えも、話してください。

例（TIKTOK）　いろんな言葉で（相談できます→相談できる）し、
スタッフが とても（親切でした→親切だった）し、よかったですよ。

①A：青森は、好きですか。
B：そうですね。食べ物は（おいしいです→　　）し、
雪は（きれいです→　　）し、好きですよ。A さんは？

動画を見た後に内容を確認したり、「質問の仕方」や「答え方」のほか、聞き取りを確認できるページもあり、学習したいことに幅広く対応できるようになっています。

交流型日本語教室開催実績

令和6年度の交流型日本語教室は、全体で60回開催しました。

その中で、弘前市では、11月から毎月の開催に変えたことで、学習者・支援者の間に「つながり」が生まれていることを感じました。

また、十和田市では、自治体と消防、企業の協力を受け、初めて交流型日本語教室を開催することができました。2つの企業から、35名の学習者が参加し、地元住民と一緒に最寄りの避難所などを確認したり、消火器の使い方を学んだりしながら日本語で交流を深めました。

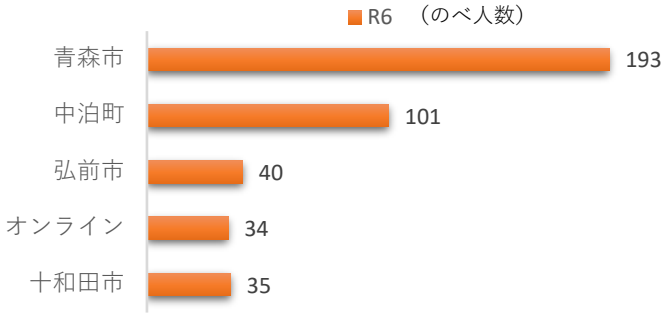
県内の在住外国人の数はどんどん増加しています。地元住民との間に「つながり」を持つことで、お互いを理解し、行き違いを減らすことができると思います。

当機構では、日本語教室の空白地域解消に向けて、新規の日本語教室の開催を目指していきます。

交流型日本語教室開催回数

	令和5年	**令和6年**
青森市	15	**24**
中泊町	10	**9**
弘前市	5	**6**
オンライン	24	**20**
十和田市	－	**1**
計	54	**60**

交流型日本語教室参加学習者総数



日本語指導サポーター/日本語パートナー養成事業事業

日本語指導サポーター養成講座は、日本語を指導できる学習支援者を養成するために令和元年度から始め、現在も継続して実施しています。
令和6年度の「日本語指導サポーター養成講座」は全8日間の日程で青森大学で開催しました。

講座を修了したのは27名で、当機構に登録している日本語指導サポーターの人数は、令和6年度末で163名となりました。

また、「日本語パートナー養成講座」では、異文化理解を深め、やさしい日本語で対話する方法を学びました。令和6年度は地域を変えて2回開催し、特に、十和田市では交流型日本語教室の開催につなげることができました。

講座を修了したのは21名で、当機構に登録している日本語パートナーの人数は、令和6年度末で82名となりました。

日本語指導サポーター
登録者数
（令和6年度末時点）
163名

日本語パートナー
登録者数
（令和6年度末時点）
82名

令和6年度日本語パートナー養成講座（青森市）

国際理解講座「世界をのぞいてみよう～フィリピン・オセアニア（大洋州）～」

青森県在住の外国人と地元住民が、異なる民族、文化、生活などについて学び合うことは地域づくりにとって非常に重要です。お互いの文化、習慣を尊重し合いながら共に暮らしていくためにも、様々な国について理解を深めましょう。

今回は、県内在留外国人数第3位のフィリピンと、世界の六大州の一つであるオセアニア（大洋州）をテーマ（予定）とします。

開催日時

令和7年8月23日(土)

13：00～16：00

会場：青森県観光物産館アスパム6階　八甲田

申込方法

無料

ＱＲコード▶

ＦＡＸ▶017-735-2067

申込期限：令和7年8月17日(日)

令和7年度 第1回 日本語パートナー養成講座（全2日間）

1日目	7/12(土)	13：00～16：30	多文化共生の“いま”/異文化理解	十和田市東コミュニティーセンター研修室1.2	無料
2日目	7/13(日)	9：30～16：30	外国語体験　/外国人と話してみよう		
問合せ先：（公社）青森県観光国際交流機構					

この講座では、青森県で暮らす外国人の方と外国語に頼らなくても、日本語で意思疎通ができるようになることや対等な関係のもとに、お互いが安心して暮らせる地域づくりを考えます。修了後は日本語パートナーとして、青森県観光国際交流機構に登録されます。

申込ＱＲコード▶

定員に達し次第受付終了

子どものための日本語学習支援事業

当機構は、「子どものための日本語学習支援基金（IJCE基金）」を活用し、外国につながる子どものために、次の2つの助成を行っています。

日本語能力試験（JLPT）等の受験料を助成します。　実施日の1か月前までに申請し、その後、受験料の支払証明書などを提出していただきます。1人2回まで助成を受けることができます。

日本語学習教材購入費用を助成します。

上限は1人当たり3,000円、1学校等当たり30,000円。

外国につながる子ども、学級担任、日本語支援員等が使用する教材を学校や支援機関が取りまとめて申請します。4月から翌年3月の間に1回申請できます。

※詳しくは当機構のホームページをご確認ください。

就労について、こんな相談がありました

Q. 現在、日本語学校に在学中。卒業後は四季のはっきりした青森で農業をやりたい。
農業の仕事を紹介して欲しい。　（相談者：中国人留学生）

A. 農業に従事する資格は「特定技能」が一般的です。特定技能の在留資格を得るためには技能試験に合格することとＮ４以上の日本語能力が必要となり、合格後、農業に従事できます。当機構では仕事の紹介はしていないので、登録支援機関等に問い合わせてみてはどうかとアドバイスしました。

外国人相談窓口について

「青森県外国人相談窓口」では、青森県内に住む外国籍の住民を対象に、日常生活での困りごとをサポートするため、相談窓口を開設しています。18か国語で対応できます。

また、「3者通話による通訳サービス」では、行政などの各種相談窓口、外国人住民、当機構の通訳相談員が同時に繋がり、通訳を介して相談することもできます。

周囲の外国籍の方にぜひお知らせください。

❖ **相談対応曜日・時間・場所**
月～金(土、日休み) 10：00～17：00
青森県観光物産館アスパム2階　国際交流ラウンジ

❖ **相談方法**
対面
TEL／017-718-5147(3者通話通訳サービスを含む)
SNS ／ WeChat、Facebook（Messenger）
(右の二次元コードからアクセスしてください)
E-mail ／ lounge_supporter@aomori-kanko.or.jp
※必要に応じて、同行通訳（1回のみ）を行います。

相談員がいる曜日

中 国 語／ 月～金
英　　語／ 月、火、木、金
タガログ語／月、火、木、金

WeChat　Facebook（Messenger）

世界で異なる文化・習慣　～　冠婚葬祭　～

※地域や宗教により異なります

赤への愛着
中国の結婚式は赤一色。会場に飾られる「囍」の文字から、新郎新婦のためのベッドまで全て赤を基調として装飾します。赤は吉祥のシンボルなのです。

あなただれ!?
フィリピンでは結婚式に呼ばれた人が、勝手に友達や親せきを連れて来たりします。新郎新婦が全く知らない人が会場にいるのを見て「あなただれ!?」なんてことも。

甘ーいおまじない
新郎新婦の頭の上で、砂糖の塊をこすり合わせ、振りかけるという習慣があるのはイランです。「甘い結婚生活になりますように」という願いが込められているそうです。

数年間喪に服す
トンガではなんでも家長が決定します。喪に服す期間も、「葬儀の時のみ」の家もあれば、10年近く、喪服を意味する黒っぽい服装をする家もあります。その間、家の中では故人の写真を色鮮やかな花々で飾るのを忘れません。

悲しくないお葬式
エチオピアやナイジェリアでは「死」は悲しいものではありません。人生から解放されるという意味を持ち、特にナイジェリアには、プロの担ぎ手が棺を担いで、みんなで踊る地域もあるそうです。

病院でお葬式
韓国の葬儀は三日葬と呼ばれ、喪主や家族は3日3晩、弔問客を迎え、食事を振舞います。その場所はなんと病院。多くの病院には葬儀専用のフロアや棟があり、中には弔問客用の食事スペースまで完備されているところもあります。

JICA海外協力隊隊員体験談

工藤 竜也（青森市出身）
２０２２年－２０２４年
任地：ベトナム
職種：コミュニティ開発

私は2022年からの2年間、ベトナム北中部に位置するゲアン省ビン市に派遣されていました。ビン市は首都ハノイから約300km、飛行機で1時間ほどの地方都市で、「ベトナム建国の父」ホーチミン主席の故郷としても知られています。

私の配属先は、JICAの技術協力により日本の農協をモデルに設立された「AMPF（Agricultural Marketing PlatForm）」という組織でした。農家や生産者の所得向上を目的に、特産品の流通支援やマーケティングを行っており、私は主に日系企業への紹介やプロモーション、ビジネスマッチングの企画運営を担当しました。

活動では「ゲアン省の商品が省外で認知されること」「日系企業に紹介できる状態をつくること」の2つを目標に据えて取り組みました。

現地に赴いてまず感じたのは、日本で抱いていた“開発途上国”というイメージとのギャップです。ゲアン省でも都市化が進み、交通や通信などのインフラも整っていました。

任地でベトナム語を教わった学校。2年目からは日本語を学生たちに指導

首都のイベントで日系企業関係者向けに任地の商品を宣伝

そんな近代化が進んだ環境で「果たして自分はボランティアとして何ができるのか」「現地の人にとって本当に意味のある支援とは何か」と自問自答する日々が続きました。成果や専門性を求められる中で、無力さを痛感する場面も少なくありませんでした。

それでも、悩みながらも前に進もうとすることで、人々との信頼関係が少しずつ生まれ、自分なりの貢献の形が見えてきました。

アジアの新興国として成長を続けるベトナムで過ごした2年間は刺激に満ちており、がむしゃらに今を生きる彼らからは、日本では得られないような活力とエネルギー、そして何よりも「現場でしか得られない学び」をたくさん得ることができました。

★JICA海外協力隊についてのお問合せ★
連絡先：jicadpd-desk-aomoriken@jica.go.jp（JICA青森デスク　阿部）
所　在：青森県観光物産館アスパム2階グローバルラウンジ内

県内の日本語教室

各教室に関する詳しい情報は右記のQRよりご確認いただけます。

地域	団体名	電話番号	E-mail
青森市	青森日本語クラブ	090-2029-1218	aomori.nihongoclub2025@gmail.com
	国際文化交流クラブ (ICEC)	090-7660-1583	potlucksmore@yahoo.co.jp
	日本語学習支援「青い森」	090-3360-6541	yuyu64asayu@gmail.com
弘前市	弘前日本語クラブ	090-4049-0057	hnc1900@yahoo.co.jp
	弘前日本語ティールーム	090-5842-0672	hirosakinihongotearoom@hotmail.co.jp
	国際にほんご教育センター (IJEC)	0172-40-0042	i.nihongo.e.c@ijec.jp
	ひろだい多文化リソースルーム	0172-30-9145	info@hirodaimrr.or.jp
八戸市	みちのく国際日本語教育センター(MIJEC)	080-6051-3109 080-6026-3109	michinokunihongo@gmail.com
三沢市	みさわ国際交流協会	080-6022-1349	misawa.mia@outlook.jp
六ケ所村	国際教育研修センター	0175-73-8575	rokkasho.lounge@gmail.com
南部町	南部町国際交流センター	0178-38-5961	noson@town.aomori-nanbu.lg.jp

国際交流ラウンジ International Lounge

〒030-0803
青森市安方1-1-40 青森県観光物産館アスパム2F
ASPAM BLDG. 2F. 1-1-40. Yasukata, Aomori-shi. 030-0803
TEL : 017-718-5147　　FAX : 017-735-2067
E-mail : lounge_supporter@aomori-kanko.or.jp

※国際交流ラウンジカウンター／外国人相談窓口

受付時間／10 : 00 ~ 17 : 00
休　　日／毎週日曜日・月曜日
　　年末年始 (12/31 ~ 1/3)、2025/2/25 ~ 2/26

編集・発行 Publisher

公益社団法人青森県観光国際交流機構
国際交流グループ
〒030-0803 青森市安方1-1-40　青森県観光物産館アスパム8F
TEL / 017-735-2221　　FAX / 017-735-2067
E-mail : info_kokusaikoryu@aomori-kanko.or.jp

当機構へのアクセスは、右記QRからどうぞ！　HP　Facebook